

ペチュニア ショックウェーブ™ シリーズ

学名: *P. × hybrida*

種子粒数の目安: 1,200ペレット粒/g

プラグ生産ステージ

留意点: ショックウェーブの苗も、プラグの段階では他のペチュニアと同じような条件で管理する。この品種独特の横張りする性質が現れるのは鉢に移植してからである。

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。土壌pHは5.5から6.0、ECの値は0.75mmhos/cm(2:1)くらいの中庸が適正

播種

ショックウェーブは播種したあと覆土はしない。播種後は十分に水を与え、ペレットを融解しやすくする

ステージ1 発芽には4、5日要する

地温: 22-24℃が適正

光条件: 明るい条件が理想的

水分: 良好な発芽条件にするため培地を十分に湿らせる(level 5)

湿度: 幼根が発生する頃までは相対湿度 99%+

ステージ2

地温: 20-24℃が適正

光条件: 26,900ルクス(2,500f.c.)まで上げても可

水分: 培地の水分を少し下げて(level 4)、培地内での根の生育を促す

肥料: レート1(100ppm(N)、EC値が0.7mmhos/cm)で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を与える

ステージ3

地温: 18-21℃が適正

光条件: 26,900ルクス(2,500f.c.)まで上げても可

水分: 水やり直前まで培地の表面がやや茶色に乾くくらいまで、乾かしぎみにする(level 2)。このようにドライとウェット(level 2と4)を繰り返す続けるようにする。

肥料: ステージ2と同様の肥料の濃度をレート2(100-175ppm(N))、EC値0.7-1.2mmhos/cm)に上げる。苗の生長が遅い場合は、硝酸態とアンモニア態の肥料を交互に与え、栄養生長を促す。培土は、pHは5.8から6.2、ECの値は1.0-1.2mmhos/cm(2:1)を維持する。

わい化剤処理

ショックウェーブの生長制御については、まずは外部条件や栄養素、またかん水等の管理によって方策を講じるようにし、それから化学的わい化処理剤を用いるといった段階を踏むことが望ましい。株の徒長を防ぐには、アンモニア態肥料を抑える。また、DIF(昼間と夜間の温度差)を用いても丈の伸張を抑えることが可能である。化学的わい化剤を用いる場合は使用前に試験を行うことが望ましい。

アメリカ仕様

B-ナイン 5,000ppmを1、2回ほど散布する。最初のプラグ苗の段階で、本葉2、3枚が出たあたりで行う。さらにそれから7日おいて2回目を散布する。この処理で、苗が生長した後の地際株が充実しやすくなる効果がある。

ステージ4

地温: 16-18℃が適正

光条件: 温度のコントロールが可能なら、53,800ルクス(5,000f.c.)まで上げても可

水分: 上記のステージ3と同じ

肥料: 上記のステージ3と同じ

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

9-11 cm 1本植え

15 cm 1-3本植え

25 cm 3-4本植え

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地のpHは5.5から6.0、初期のEC値は0.75で維持。

温度

昼間温度 16-24℃

夜間温度 14-18℃

ショックウェーブは、最低でも10℃以上の条件で育てるのが望ましい。日長時間が適正なもとは、生産者の平均温度が到花日数と関係します。ショックウェーブは、温度が低いと開花まで時間がかかります。

照度

適正温度が維持されているならば、できるだけ高くする

肥料

ショックウェーブは、他のペチュニアよりも肥料をより多く必要とするので、リン酸分の低い硝酸態の肥料をレート3(225-300ppm(N)、EC値1.5-2.0mmhos/cm)の濃度でかん水と交互に与える。株の生育具合を見ながらアンモニア態と硝酸態のバランスよく使って管理する。pHは5.8-6.2を維持する。

わい化剤処理

・アメリカ仕様

B-ナイン 5,000ppm を苗の移植後 7 日たってから散布する。続いて、ボンザイ 3-5ppm を状況を見ながらかん注する。さらに追加的な処理が必要な場合は、ボンザイ 30ppm を散布すると、株がまとまりやすくなる。

わい化剤の使用に関しては自身の施設に用いる最適な濃度や倍率を決めるために、事前に試験を行うことが望ましい。

日長時間との関係

ショックウェーブの必要とする日長時間については、生産する地域や作型によって異なる。

ショックウェーブは、比較的日長の影響を受けにくい品種である。概ね 10 時間以上の日長を確保できれば、問題なく開花するだろう。ただし、12 時間の条件と比較した場合は、10 時間の条件だと 10-14 日到花日数が遅くなる。

ショックウェーブを短日条件の中で生産するのであれば、苗を移植した後、電照による補光で生産期間を縮めることは可能である。補光は明期延長でも、暗期中断(光中断)でもどちらでも可能。

注意点

・EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合もあります。

・この栽培資料はアメリカとヨーロッパの栽培データをもとに作成されています。

平気的な生育期間

播種から移植まで(288-406 穴): 4-6 週

移植から出荷敵期まで: 5-7 週

ポット上げから開花・出荷: 5-8 週(下記参照)

コンテナサイズ	株本数/ ポット	春生産 (春出荷)	夏生産 (夏出荷)
9-11 cmポット	1 株	9-11 週	8-10 週
15 cmポット	2-3 株	10-12 週	8-10 週
25 cmポット ・バスケット	3-4 株	10-13 週	8-10 週

予想される一般的な障害等

適正な管理を施し、いわゆる IPM(総合的病虫害管理)が行われているのであれば、病中や虫害によるとくに大きな問題は発生しないだろう。

注意点

○ショックウェーブを生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてお使いください。生産物は、気候条件や地理的な緯度・経度、または作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります。

○殺虫・殺菌剤、またはわい化剤を用いる場合は、必ずガイドラインによる使用方法を厳守しましょう。当該の規定や条例のもとで、注意書きをよく読み正しく使用してください。

PanAmerican Seed™

PanAmSeed.com

PanAmerican Seed Co.
622 Town Road
West Chicago, Illinois USA 60185-2698
630 231-1400
Fax: 630 231-3609

PanAmerican Seed Europe BV
Lavendelweg 10
NL-1435 EW Rijssenhou, Holland
+31 (0)297-383038
Fax: +31 (0)297-383036